

平成4年 県内鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

一 概況

1. 生産の動き

平成4年の県内鉱工業生産指数の年平均は、93.4（平成2年=100）で（年指数については、原指数による。以下同じ。）、対前年比△5.4%の減少となった。四半期ごとの推移についてみると（四半期別指数については、季節調整済指数による。以下同じ。）1～3月期94.4（対前期比2.9%減）、4～6月期92.9（同1.5%減）、7～9月期94.9（同2.1%増）、10～12月期91.6（同3.5%減）と増減を繰り返した。

これを業種別に対前年比でみると、非鉄金属工業0.4%、金属製品工業1.9%、石油・石炭製品工業7.1%、プラスチック製品工業0.3%とそれぞれ増加した。一方、鉄鋼業△9.9%、一般機械工業△10.6%、電気機械工業△14.7%、輸送機械工業△6.2%、窯業・土石製品工業△5.8%、化学工業△5.5%、パルプ・紙・紙加工品工業△1.7%、繊維工業△0.8%、食料品工業△0.4%とそれぞれ減少した。

また、財別に対前年比でみると、非耐久消費財1.7%、その他用生産財4.4%とそれぞれ増加した。一方、資本財△5.9%、建設財△4.9%、耐久消費財△6.4%、鉱工業用生産財△6.4%とそれぞれ減少した。

2. 生産者製品在庫の動き

平成4年の県内鉱工業生産者製品在庫指数（以下「在庫指数」という。）の年平均は、107.5（平成2年=100）で、対前年比0.7%の増加となった。四半期ごとの推移についてみると、1～3月期102.7（対前期比4.1%減）、4～6月期109.5（同6.6%増）、7～9月期114.4（同4.5%増）、10～12月期104.0（同9.1%減）と増減を繰り返した。

これを業種別に対前年比でみると、鉄鋼業35.1%、非鉄金属鉱業47.0%、電気機械工業29.6%、石油・石炭製品工業6.9%、プラスチック製品工業5.9%、繊維工業4.3%、食料品工業9.6%とそれぞれ増加した。一方、金属製品工業△12.0%、一般機械工業△2.6%、輸送機械工業△23.7%、窯業・土石製品工業△14.6%、化学工業△2.2%、パルプ・紙・紙加工品工業△8.5%とそれぞれ減少した。

また、財別に対前年比でみると、資本財6.1%、耐久消費財0.5%、非耐久消費財3.7%、鉱工業用生産財0.7%、その他用生産財19.8%とそれぞれ増加した。一方、建設財△10.4%と減少した。

（参考）全国の概況

平成4年の鉱工業生産は、円高不況時以来6年ぶりの前年割れ（前年比△6.1%）となり、前年割れ幅も、第一次オイルショック時（昭和50年△11.0%）以来の大きさとなった。四半期別にみると、1～3月期は前期比△3.1%、4～6月期は同△2.2%、7～9月期は同0.2%、10～12月期は同△2.8%となっており、7～9月期に上昇したが他の期は低下した。

（通商産業大臣官房調査統計部編「平成4年 年間回顧 鉱工業生産活動分析」から抜粋）